

# 視察報告書

度会町 度会ウインドファーム

令和4年5月10日（火）



松阪市議会  
政友会

令和4年5月31日

松阪市議会議長 堀端 脩 様

松阪市議会  
政友会 山本 芳敬

令和4年5月10日(火)13時30分より15時30分まで行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

## 記

### 1. 参加者

【議員】 中村 誠、松本一孝、市野幸男、米倉芳周、坂口秀夫、堀端 脩、野呂一男、山本芳敬

### 2. 対応者 度会町

度会町議会	議長	濱岡 裕之氏
	副議長	若宮 淳也氏
	議員	大野 原徳氏
度会町	みらい安心課 課長	山下 喜市氏

### 3. 視察先及び視察事項

#### ●度会町

度会ウインドファームについて

- ① 事業の概要
- ② その他関連事項

### 4. 視察内容

別紙のとおり



## 研修項目

### (1) 度会ウインドファーム事業の概要について

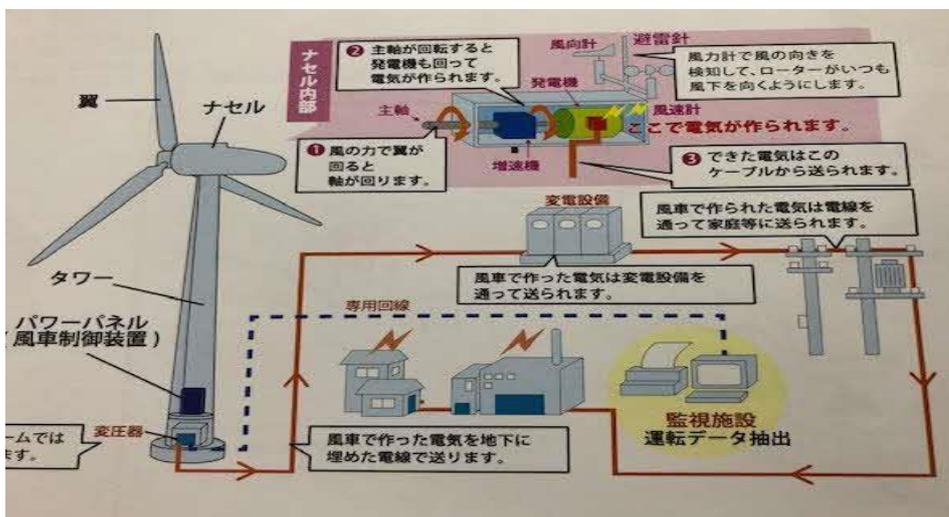
#### ① 基数、発電量等

- ・ 社名 コスモエコパワー株式会社 (東京都品川区大崎)
- ・ 発電所名 度会ウインドファーム
- ・ 所在地 度会郡度会町日の出の森
- ・ 高さ 118m 羽 80m (日立製作所)

- ・ 25基、5万kw (1基 2000kw/h)
- ・ 売電収入 22円/kwh
- ・ 事業計画の有効年数 FIT年数20年
  - 第1期 2037年 第2期 2039年
- ・ 第1エリア 14基 第2エリア 11基

## ②事業計画の推移

- ・ 平成17年 調査開始。  
新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)が調査に入り、風況報告が良好と結果をいただく。その後、事業者が建設に意欲。  
数年間の住民への説明(各自治会)及び地権者90軒を説得。
- ・ 平成25年 地域住民が建設に同意。
- ・ 平成26年 工事着工。
- ・ 平成31年 運転開始。



## (2) 風力発電所事業における地域住民との関係性について

### ①風力発電所事業計画の推進派、反対派住民への行政の対応

一貫して、行政は中立の立場をとった。各地域の住民の同意が最優先とした。建設予定地の地権者は、ほぼ個人で、90軒の地権者への対応を事業者が行った。

事業者は各地域（自治会）にあった貢献策を打ち出し数年かけて説明と建設同意に向けて活動した。町議会でも多様な議論があったが、終始中立の立場を貫いた。

### ②事業計画による「補償」部分の焦点

- ・騒音「低周波」、シャドーフリッカー等による健康被害の懸念。

一番近い住民で、発電機から1.5Kmに位置し、住居から見えない場所にあり、問題なしと判断した。稼働後も健康被害はでていない。

- ・土砂災害、水質汚濁の問題。

地域により問題点は異なるが、事業者と地域住民との細かい協議をし、各自治会は、それぞれ覚書を交わしてあるとのこと。各詳細について、行政は把握していない。

### ③地域へのメリット

- ・まず、個人及び地区への土地借用補償があげられる。また、各地域の行事等への協力金等も事業者より提供されている。風力発電が稼働して3年を迎えるが、行政側として地域との関係は、現在、良とみているようである。



### (3) 風力発電所の現場視察





- ・ 住居からかなり離れており、住居から風車を見ることができないことも一つの安心効果があるのかも知れないと感じた。合計25基に及ぶ発電所は、改めて大型であると実感した。風光明媚な自然を愛する山岳愛好者には、残念な光景であるかも知れない。

#### (4) 所感

少子高齢化が著しい度会町において、今回、視察させていただいた「風力発電所建設事業」は結果的には、将来を見据えての苦渋の決断だったのかも知れないと感じた。それは、行政にとっても、住民にとっても同様だと考える。

令和3年3月に策定された「度会町第2期ビジョン」によると、産業別に第一次産業は近年比較で30%の減少、第二次産業においては20%の減少、また、第3次産業は17%減少というように産業生産が大幅減少の中、人口構成の未来予想でも現在の7800人から2040年には5700人、2060年には3800人と極めて厳しい状況が予想され、政策として、30歳～40歳前後の若い世代の移住促進を実施しなければならない状態にあります。

それは県内南勢地区の自治体においては、同様ですが、当町のような小規模な自治体は、特に厳しいと言えます。

新しい産業の導入という観点から、この風力発電所建設事業は、自然破壊、災害等の懸念はあるものの、地権者にとっては借地収入が入り、地域にとっては地域を運営するための協力金がそれぞれ事業者より入り、行政は、固定資産税の徴収等をはじめ、様々なイベントの協力や支援が受けやすくなっている。

行政は、「事業者による地域への厚い貢献策もあり、不協和音もなく、地域住民との共存共栄はできている」と言うが、反面、失っているものも大きい

とみる。

「当町の豊かな自然環境を活かした30歳代等の若い世代の増加を促進」と謳っているが、25基の大型風車のある地に魅力を感じるか。疑問である。

以上